

コース名	ゼロ(日商3級)コース	
科目名	簿記	
回数	1	回

6	枚中	1	枚目
サイン		井川	

ICO簿記ゼロ(日商3級合格)コース 第1回

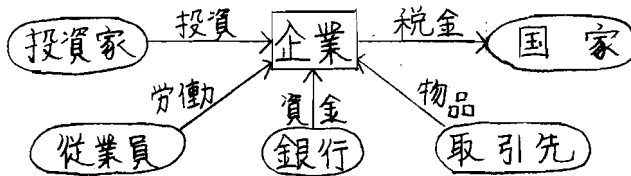
第1章 簿記の基本原理

1. 簿記の目的

← 商売をして利益を得る。

(1) 簿記とは、企業の営業活動を一定のルールに従って記録・計算・集計する方法。

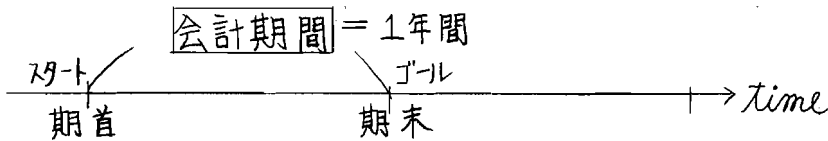
企業をめぐる利害関係者



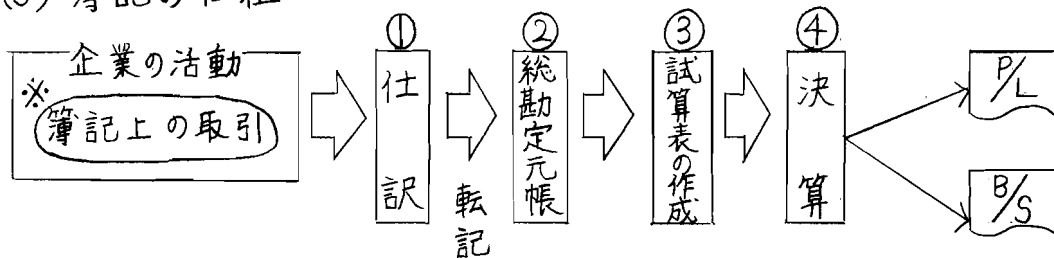
(2) 簿記の目的

① 一定期間の経営成績を明らかにする。 ⇒ 損益計算書 (P/L)

② 一定時点における財政状態を明らかにする。 ⇒ 貸借対照表 (B/S)



(3) 簿記の仕組



コース名	セコ(日商3級)コース	
科目名	簿記	
回数		回

6	枚中	2	枚目
サイン 井川			

※ 簿記上の取引 … 資産・負債・純資産の増減する取引。

Cf. 通常取引との違い

ex 1. 社会保険に加入する行為(契約するだけ) = 通常取引
→ 簿記上の取引ではない

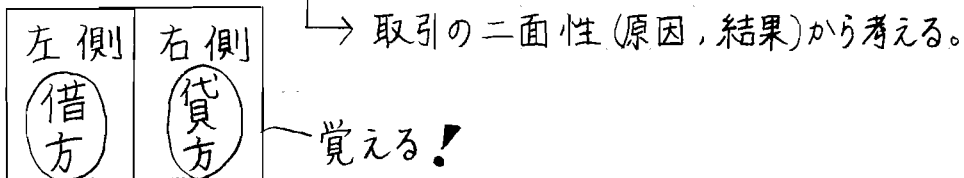
ex 2. 地震によって会社の建物が壊れた = 簿記上の取引
→ 通常取引ではない

① 仕訳 (第1作業)

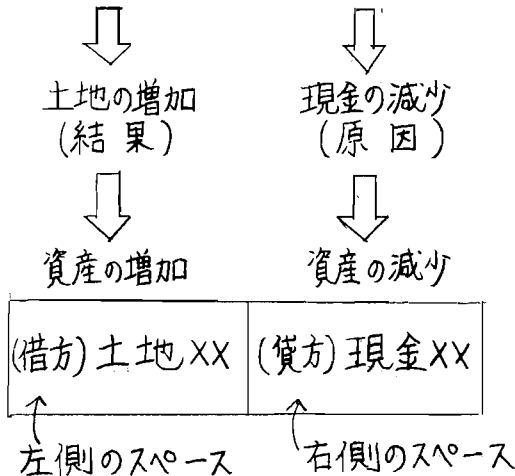
見つけ出した簿記上の取引を "一定の言葉(勘定科目)" と "金額" によって記録する作業のこと。

仕訳は仕訳帳というノートに記入される。

仕訳帳は、左側の借方と右側の貸方からなっている。



ex) 土地を現金を支払って購入した。



コース名	ゼロ(日商3級)	コース
科目名	簿記	
回数		回

6	枚中	3	枚目
サイン		井川	

覚えるア。

★★勘定科目の振り分けのルール

貸借対照表 に属する グループ	資産	→ 増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に。
	負債	→ 増加は貸方(右側)に、減少は借方(左側)に。
	純資産	
損益計算書 に属するグループ	収益	→ 増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に。
	費用	

② 元帳(総勘定元帳)への転記 (第2作業)

転記する内容 … 日付、相手科目、金額の3要素

<仕訳帳>

例1. (借方)現金 50,000 (貸方)売上 50,000

例2. (借方)仕入 30,000 (貸方)現金 30,000

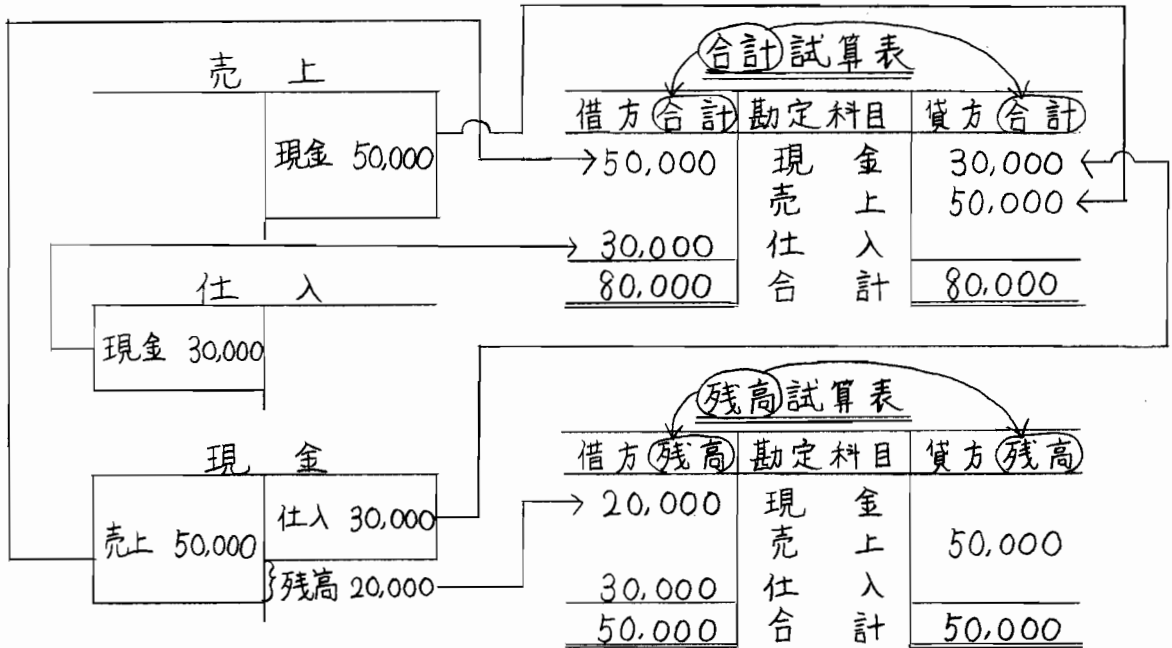
<元帳>

仕入		売上	
2. 現金 30,000 附 相手 金額 転記		1. 現金 50,000 転記	
現金			
1. 売上 50,000 転記		2. 仕入 30,000 転記	

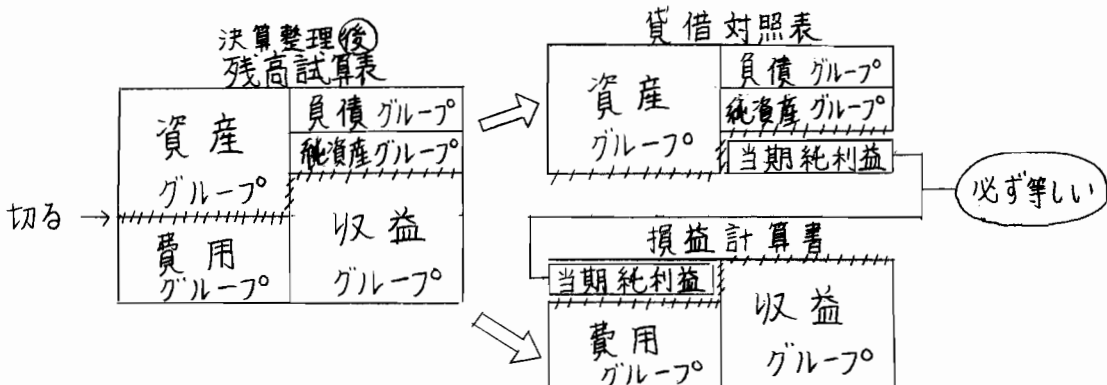
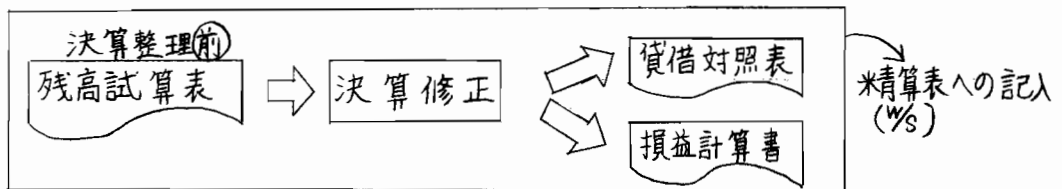
③ 試算表の作成 (第3作業)

< 総勘定元帳 >

< 試算表 > (T/B)



④ 決算 (第4作業) (期中取引の一部修正が追加)



コース名	ゼロ(日商3級)コース	
科目名	簿	記
回数		回

6	枚中	5	枚目
サイン		井川	

第2章 期中取引 (営業取引)

1. 商品売買

(1) 三分法

- ① 商品購入時 …… 仕入勘定(費用グループ)
- ② 商品販売時 …… 売上勘定(収益グループ)
- ③ 期末の在庫商品 …… 繰越商品勘定(資産グループ)

(2) 商品購入時(原価で記入)

(借方) 仕入 XX (貸方) 現金 XX

(3) 商品販売時(売価で記入)

(借方) 現金 XX (貸方) 売上 XX

(4) 掛取引 = 信用取引

(一定期日まで支払い(受取り)を延ばして代金決済を行う取引)

① 商品を掛で売上げた。

(借方) ^{カケ金} 売掛金 XX (貸方) 売上 XX

→ 資産グループ

② 商品を掛で仕入れた。

(借方) 仕入 XX (貸方) ^{カケ金} 買掛金 XX

負債グループ ←

(5) 手形取引

手形を受取った時 ⇒ 受取手形勘定(資産グループ)
(約束手形) 手形を振出した時 ⇒ 支払手形勘定(負債グループ)

① 商品を売上げ代金は手形で受取った。

(借方) 受取手形 XX (貸方) 売上 XX

② 商品を買入れ、代金は手形を振出した。

(借方) 仕入 XX (貸方) 支払手形 XX

コース名	ゼロ(日商3級)コース	
科目名	簿記	
回数		回

6	枚中	6	枚目
サイン		井川	

(6) 運賃の処理

① 仕入時の運賃 $\xrightarrow{\text{引取運賃}}$ \rightarrow 仕入勘定 に含める。

② 売上時の運賃 $\left\{ \begin{array}{l} \text{ケース1) 売主負担の場合} \rightarrow \text{支払運賃勘定} \\ \text{費用グループ} \end{array} \right.$ で処理。

引渡運賃

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ケース2) 買主負担の場合} \rightarrow \text{立替金(又は売掛金)勘定} \\ \text{資産グループ} \end{array} \right.$ で処理。

(7) 値引の返品 (仕入, 売上の反対仕訳を行えばよい)

① 値引の処理

例 a. 掛で商品 5,000 を売上げた。

b. キズが発見されたので 400円値引いた。

販売者側

購入者側

aの取引 売掛金 5,000 / 売上 5,000

仕入 5,000 / 買掛金 5,000

bの取引 売上 400 / 売掛金 400
販売時の反対仕訳を行う

買掛金 400 / 仕入 400
購入時の反対仕訳を行う

② 返品の処理

値引と同様に処理すればよい。

— 以上 —